

# おあしす

林間放牧における放牧地への環境影響評価  
Assessment of environmental impact on grazing areas in forest grazing



林間放牧で野生のように生きる牛



放牧地や林間を自由に移動する牛たち



放牧地での植生調査



草地更新を行わないため牧草以外の野草・雑草が侵入した放牧地の植生



2021年の夏は降水量が少なく一部の放牧地の草が枯れてしまった



放牧地の草が枯れても林間部のササや野草を牛たちは利用している

## 日本沙漠学会 2023 年 第 34 回学術大会開催のお知らせ (第三報)

### 1. 大会予定概要

【日時候補日】2023 年 5 月 27-28 日 (土 - 日)

【会場】ホテルメリージュ 大ホール 鳳凰 (27 日 公開シンポジウム & 学術大会)

<https://www.merieges.co.jp/>

宮崎大学キャンパス 330 記念交流会館 (28 日 学術大会) /

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/access/kibana/>

<https://www.of.miyazaki-u.ac.jp/330anniv/330hall/shiryousisetupanfu.pdf>

#### 【スケジュール概略】

5 月 27 日 (ホテルメリージュ大ホール 鳳凰)

10:30-11:30 Session1 (以下【6. プログラム】参照)

12:30-14:00 ポスターセッションコアタイム (以下【6. プログラム】参照)

14:00-15:15 総会及び学会賞授与式

15:30-17:30 公開シンポジウム (以下【7. 公開シンポジウム】参照)

宮崎から見る世界の農業・防災・エネルギー

西岡賢祐 (太陽光)

川崎典子 (防災教育)

多炭雅博 (農業気象)

18:30-21:00 懇親会 (於ホテルメリージュ同会場)

5 月 28 日 (宮崎大学・330 記念交流会館)

09:30-10:45 Session2 (以下【6. プログラム】参照)

11:00-12:00 Session3 (以下【6. プログラム】参照)

12:00-13:00 昼食 (弁当注文承る予定)

13:00-17:00 エクスカーション: 青島-堀切峠-鶴戸神宮 (無料・要事前申込)

### 2. 参加申込み (総会出欠確認)

【参加申込 Web ページ】

<https://www.jaals.net/> 大会 - シンポジウム /2023- 大会 - シンポジウム / 第 34 回大会参加申込 /

参加申し込み締め切り: 2023 年 5 月 20 日 (土)

### 3. 研究発表会

【口頭発表】オンサイト会場での口頭発表

【ポスター発表】オンサイト会場でのポスター発表

【発表プログラム】以下「6.」参照

### 4. 参加費

【大会参加費】一般 4,000 円; 学生 2,000 円

【懇親会費】一般 6,000 円; 学生 3,000 円

### 5. 事務局

第 34 回 日本沙漠学会学術大会実行委員会 事務局

〒889-2192 宮崎市学園木花台西 1 丁目 1 番地

宮崎大学工学部 工学科 土木環境工学プログラム 教授 入江光輝 [委員長]

TEL: 0985-58-7341

E-mail: [jaals2023@gmail.com](mailto:jaals2023@gmail.com)

## 6. プログラム

	発表者	研究発表タイトル
Session1	丸山優樹○・伊藤紀子・ Mnadiaye Diagne	持続的なコメ生産に対する消費者選好の評価：セネガルを事例に
	篠原 卓	ジブチ共和国におけるトマト種子の品質とプライミング処理が出芽と初期生育に及ぼす影響
	真田篤史	ボカシ肥の施用が秋作チンゲンサイの生育，特に根の発達に及ぼす影響
	森尾貴広	アフリカに対する中国の直接投資の概観
Session2	矢沢勇樹	ファインバブル水が土壌透水性に及ぼす影響
	藤巻晴行	塩水灌漑条件下における水価格を考慮したブロッコリーの灌水量の決定
	渡邊三津子	複数時期の衛星画像と大野盛雄フィールド調査写真からみたアフガニスタン農村の半世紀の景観変化
Session3	入江光輝	人工知能による画像判別の応用はどこまでできるか？砂礫河床粒径判別の事例
	石川祐一	早生ヤナギによる 1,4- ジオキサンの浄化手法の開発：生育時期と系統の浄化効率への影響
	星野仏方	グリーンインフラストラクチャーの視点から中国「一带一路」(BRI) プロジェクトのリスクを再考する
	真木太一	中国の極乾燥地の魔鬼城などでの大規模な局地風と日本の局地風 87 の特徴
ポスター	川田清和	モンゴル国フスタイ国立公園における施肥が草原植物に与える影響
	篠田雅人	気候・社会変動適応のためのモンゴル遊牧ビジョン 2050
	1 Zukhriddin Ismoilov	Study on the potential of poultry development in Surkhandarya region, Uzbekistan
	2 IGOR TARANOV	Driving forces and obstacles for transition to organic farming in Issyk-Kul province of Kyrgyzstan
	3 Mariam Bokuchava	Food Consumption Practices as Social and Economic Markers in Georgia
	4 Davit MEJLUMYAN	The Role of the Second Community Agricultural Resource Management and Competitiveness Project in the Economy of Armenia
	5 Thi Can Nhung	ベトナムにおけるロブスタ種有機コーヒーのポテンシャル評価
	6 山本翔太	ジブチ共和国放牧地における固定翼 UAV 及び深層学習を用いた植生バイオマスの推定
	7 依田幸子	塩害防止のための葉草栽培におけるエンドファイトの活用
	8 花好勇太	ウズベキスタンにおける日本品種のチャの栽培に関する研究
	9 緒方天斗	植生被覆回復による土砂生産抑制を目的としたダム堆積土砂有効利用
	10 Sarwary Manizha	Estimation of discharge in the alluvial fan for evaluating the potential for artificial groundwater recharge in Balkh Afghanistan
	11 Alemshet Bekele Tadesse	Experimental study on the coupled effect of Lime and Diatomaceous Earth in Expansive Soil
	12 柴田理佳	ジブチ共和国アンブリワジにおける水循環モデルの構築
13 倉光太一	ジブチ共和国南部沙漠地帯の蒸発特性	
14 西村彩花	BSC 緑化工法における施工初期の生育と土壌侵食抑制	

## 7. 公開シンポジウム

2023 年 第 34 回学術大会 公開シンポジウム

「宮崎から見る世界の農業・防災・エネルギー」

主催：日本沙漠学会 共催：宮崎大学工学部

日時：2023 年 5 月 27 日（土） 15：30～17：30（受付 15：00～）

会場：ホテルメリージュ 大ホール 鳳凰（参加費無料）

開催趣旨：

乾燥地や島嶼国など、日本とは気候や文化が大きく異なる地域に暮らす人々も宮崎と同じく農業、エネルギー、防災などに課題を抱えています。今回のシンポジウムではそうした開発困難地域や地球規模の課題への取り組みや、地域を超えた共通の課題の共有など、宮崎大学を拠点にする研究者の地域と海外での活動紹介を中心に議論を進めます。

演題1「水・食料・環境の持続性確保のための人工衛星を使った地球観測技術」

多炭雅博 宮崎大学農学部森林緑地環境科学科 教授

演題2「「防災×教育」で取り組む国際協力活動の可能性～みやざきの経験をバヌアツに活かす～」

川崎典子 宮崎大学工学教育研究部 工学基礎教育センター

演題3「沙漠地域にも広がる太陽光発電」

西岡賢祐 宮崎大学工学教育研究部 環境・エネルギー工学研究センター 教授

司会：入江光輝 宮崎大学工学教育研究部土木環境工学プログラム担当 教授



2023年 第34回学術大会 公開シンポジウム  
「宮崎から見る世界の農業・防災・エネルギー」  
主催：日本沙漠学会 共催：宮崎大学工学部  
日時：2023年5月27日(土) 15:30～17:30 (受付 15:00～)  
会場：ホテルメリージュ 大ホール 鳳凰 (参加費無料)

演題1「水・食料・環境の持続性確保のための人工衛星を使った地球観測技術」  
多炭雅博 宮崎大学農学部森林緑地環境科学科 教授

演題2「「防災×教育」で取り組む国際協力活動の可能性  
～みやざきの経験をバヌアツに活かす～」  
川崎典子 宮崎大学工学教育研究部 工学基礎教育センター

演題3「沙漠地域にも広がる太陽光発電」  
西岡賢祐 宮崎大学工学教育研究部 環境・エネルギー工学研究センター 教授

司会：入江光輝 宮崎大学工学教育研究部土木環境工学プログラム担当 教授

開催趣旨：  
乾燥地や島嶼国など、日本とは気候や文化が大きく異なる地域に暮らす人々も宮崎と同じく農業、エネルギー、防災などに課題を抱えています。今回のシンポジウムではそうした開発困難地域や地球規模の課題への取り組みや、地域を超えた共通の課題の共有など、宮崎大学を拠点にする研究者の地域と海外での活動紹介を中心に議論を進めます。

お問い合わせ：  
第34回 日本沙漠学会学術大会実行委員会 事務局  
宮崎大学工学教育研究部 入江光輝  
TEL：0985-58-7341  
E-mail：jaa1s2023@gmail.com

## 沙漠工学分科会開催報告

2023年3月8日、東京農業大学世田谷キャンパスにおいて沙漠工学分科会を開催致しました。コロナ禍のため3年ぶりの開催となりましたが、対面とのハイブリッド開催で、久しぶりに皆様と集うことができました。今回のテーマは東京農業大学の1991年にスタートした砂漠緑化プロジェクトの流れで、現在活動期間中であるSATREPSのプロジェクトメンバーによる「極乾燥地域ジブチにおける持続可能な農牧業を目指した共同研究 Collaborative Studies for Sustainable Agropastoral of Extremely Dry Environment in Djibouti」と致しました。

講演に先立ち、日本沙漠学会の森尾貴広会長から東京農業大学におけるプロジェクトの経緯がフランス語を交えて紹介されました。講演は①STREPS「ジブチにおける広域緑化ポテンシャル評価に基づいた発展的・持続可能水資源管理技術確立に関する研究」の概要について東京農業大学教授の島田沢彦プロジェクトリーダーから、②ジブチのアッペ湖での微細藻類であるスピルリナの発見についてジブチ大学のIbrahim Souleiman Abdallah氏から、③ジブチの地下水の化学組成についてジブチ大学のIdil Mouhoumed Elmi氏から、④ジブチの農業資源についてジブチ大学のAbdillahi Houssein Abdallah氏から、⑤ジブチのアリ・サビエ放牧地から収集された放牧能力パラメータについて東京農業大学の木村李花子・黒澤亮氏から、⑥ジブチのドゥダでの持続可能なアグロパストラル実験圃場の設立について東京農業大学の渡邊文雄・真田篤史氏から、それぞれ報告がありました。何れの報告においてもジブチでの活動風景が示され、極乾燥地域における持続可能な農牧業を目指した取り組みがよくわかるシンポジウムでした。講演の最後にジブチ大学のIdilさんから、プロジェクト参加・シンポジウムへの招聘に対する感謝の言葉があり、来日が彼らにとって有意義であったことが報告されました。日本沙漠学会では、砂漠工学を「砂漠に住む人々との相互理解に基づく協力を前提として砂漠を活用しようとする新しい研究分野」としていますが、今回のシンポジウムの内容は、砂漠工学を実感できる内容であったと自負しております。今後学会誌に特集記事を掲載していく予定ですので、ご期待頂ければと思います。シンポジウムの閉会に際して、豊田裕道元会長から、講演者、プロジェクト関係者への労いと今後のますますの発展を祈念するとの挨拶を頂きました。参加者は対面参加者が30名、オンライン参加者が21名でした。

文責：沙漠工学分科会会長 田島 淳



恒例の参加者の記念写真（於：東京農業大学サイエンスポート最上階のエアブリッジ）

## 学会賞審査委員会からのお知らせ 日本沙漠学会若手会員のみなさんへ

学会賞担当理事 渡邊 三津子  
的場 泰信

日本沙漠学会では「奨励賞」「ベストポスター賞」を、若手研究者のみなさんを対象とした賞として設けています。

### 奨励賞

- 乾燥・半乾燥地に関する萌芽的研究業績を挙げた会員に授与されます。  
※ 『沙漠研究』に掲載された論文や研究業績に基づき、自薦または学会員の推薦を受けて審査されます。
- 満35歳以下の若手会員、博士課程在籍者または博士課程修了後10年以内の会員を対象としています。※ 社会人経験者など「若手相当」とみなされる方は満35歳以上であっても対象となります。

### ベストポスター賞

- 研究内容、表現や説明技術、熱意などが優れているポスター発表に対して授与されます。
- 学術大会でポスター発表をする満35歳以下の学部生、大学院生と大学院修了・中退後3年未満の会員が対象となります。※ 社会人経験者など「若手相当」とみなされる方は満35歳以上であっても対象となります。

### メリット① 自分の研究について知ってもらえる

受賞者の研究は、学術大会だけでなくホームページなどで紹介されるので自分の研究について多くの人に知ってもらえる機会になります。

### メリット② 履歴書に書ける

「奨励賞」「ベストポスター賞」をもらったら、履歴書の賞罰の欄に記載できるので、就職活動にも役立ちます。

日本沙漠学会に所属する若手会員の皆さん  
全員にチャンスがあります！

学術大会で発表した人は、ぜひ  
『沙漠研究』に論文を投稿しましょう！

---

 書評
 

---

吉川賢著

「森林に何が起きているのか 気候変動が招く崩壊の連鎖」



中公新書

2732

本学会の前会長、吉川賢先生の著された渾身の一書である。「初めての熱帯林調査は1984年であった…」、以来40年近くに及んだ研究の集大成であり、本書で言及される30以上の国々と多様な森林、すべてが自ら踏査された経験に基づいておりリアリティに満ちている。

序章では、各地で頻発する大規模な森林火災から筆が起こされる。過去最大という言葉が毎年更新される異常な現状もさることながら、温暖化が森林火災を誘発し、森林火災が更に温暖化を促進してしまうという悪循環の指摘に、冒頭から強い危機感で引き込まれる。その後、世界の森林を巡る旅は、1章「シベリアタイガの危機」、2章「砂漠化と森林」、3章「脆弱な熱帯林」、4章「変貌する日本の森林」とたどって、5章「これからの森林管理」で力強いメッセージが読者に放たれる。森林の崩壊を食い止めるため、警告だけでなく希望を抱いて「力一杯鐘を鳴らしてみた」著者の思いが胸に響く。

樹木生理学・森林生態学をベースに、最新の知見や現代的なテーマも豊富に扱われているが、難解に過ぎる心配は無い。専門用語にも十分な基礎的解説があり、おおむね高校生以上の一般人に向けられた書と言える。願わくば10代・20代の若い層にこそ読んでもらいたい。本書がきっかけとなり、森林や林業を一生の仕事に選ぶ人も出てくるのではないかと、そんな夢を抱かせる内容である。フィールド調査の様々な一コマを切り取ったコラムも充実している。蚊の猛襲や平地林での道迷いといった、比較的想像のつきやすいものから、調査に用いたヤグラがたちまち解体され近所の家屋補強に転用されてしまっ

た人間くさい挿話まで、生身の研究者の息づかいが聞こえて、時に笑わされ、時に共感させられる。

本書を貫くのは、森林に対する私たち人間の関わりのあるあり方、中でも森林資源の利用が、過去いかなる経緯をたどり、現状どのような課題が存在し、そして予見される将来にどう対応していくべきかという、真剣な問いかけである。歴史に学んだ上で、気候変動を科学的に予測し、社会的・経済的また文化的な諸要因まで勘案しながら、森林の持続的利用や保全につなげていくという高難度の課題に対し、万能の解が本書に示されるわけではない。むしろ、未だよく分かっていないことや、関係者間の合意が出来ていないことに関し、謙虚に認める姿勢を著者は崩さない。森林や林産物に関しては、FAOの集計でさえ正確性に限界があること、劣化度も定性的な数段階の評価に留まっていること、薪炭林の不足の実態すら量的把握が困難であること等、科学者や技術者が注意をもって自覚しなければならない前提の存在に気付かされる。更には、森林に関する世間的な通念（著者は「幻想」とも呼ぶ）も見直しを迫られる。熱帯林は多様ではあるが、復元しづらい脆弱な生態系であること、乾燥地の疎らな痩せ木は、森林にはカウントされないものの生活を支える必須の資源であること、日本においても、豊かで持続的な里山なるものは存在したことがなく、近世までは酷使され尽くしたハゲ山が広がっていたこと等、本会会員には既知かも知れないが、改めて認識すべき事実が丁寧に述べられている。

言うまでもなく、森林資源への依存度は、開発途上国の貧困層において特に高い。世界の木材消費の半分は燃料用であるという、日本においては気付くべき事実も、途上国の現場では肌身で実感される。ODAを通じた農業・農村開発のコンサルタントである評者にとって、耳が痛くもあり真摯に傾聴すべき指摘が、ふんだんに含まれている。私事にわたるが、評者が駆け出しの頃に従事したモーリタニア国の開発調査で、吉川先生に作業監理委員をご担当いただいた縁があり、その案件で厳しく問われた“住民による自立発展性”の教訓も本書中に言及されている。ワジに一本だけ残るバオバブの古木を見て開発協力への思いを深くした、当時の自分の姿を思い出しながら読んだ。

最終の5章は圧巻である。育ち盛りの若い森林が減り、高齢林の木材蓄積をもて余している日本において、気候変動やウッドショックをばねに「林業で森林を目覚めさせ」、負のスパイラルから抜け出し、「植えて伐って植える」成長産業化を目指すと同時に、二酸化炭素の正味の吸収源・長期の固定源として公益機能も発揮させる。そのためには、人間の一生より長くかかる森林との付き合い方をわきまえて、戦後以来の場当たりの森林の作り替えをやめ、「どのような森林を求めるとののグランドデザイン」を描くべきこと、一旦決めたビジョンは変えずに貫くこと、そして、森林技術者が力を奮う場がここに待っていることが、日本の森林および林業へのエールとして、勢いのある筆致で展開される。

気候変動の影響がこのまま連鎖し、将来、「森林に何が起きてしまったのか」と後悔と共に振り返る事態にならないよう願う。そのためにアクションを開始するのは、我々世代の責務である。広く一読を勧めたい。

(森 卓)

## 学会記事

### 日本沙漠学会第 156 回理事会

日 時：2023 年 1 月 7 日（土）14：00～16：00

会 場：Web 会議

出 席：森尾貴広（会長）、鈴木伸治、田中徹（以上、副会長）、豊田裕道、渡邊文雄（以上、監事）、矢沢勇樹、川端良子、小島紀徳、小長谷有紀、石川祐一、渡邊三津子、的場泰信、田島淳、島田沢彦（以上、理事）、安部征雄、森卓（顧問）、酒井裕司（副編集委員長）、真田篤史、篠原卓（以上、総務委員）、齋藤哲治（事務局）

オブザーバ：篠田雅人・甲野耀登（秋季シンポジウム大会実行委員長・幹事）、入江光輝（次回学術大会実行委員長）

議 題：

#### I. 報告事項

##### 1. 秋季シンポジウム開催報告

- ・シンポジウムの篠田実行委員長から、開催の報告が行われた。
- ・秋季シンポジウム「遊牧を考える一過去・現在・未来」は、2022 年 10 月 15 日（土）にレクトーレ湯河原で開催された。参加人数は、対面 21 名、オンライン 37 名の計 58 名であった。対面参加者の中には、4 名のモンゴル人研究者も含まれる。また、公開シンポジウムとしたため、日本沙漠学会の会員のみでなくモンゴル学会など他学会等からの参加者もあり、横のつながりを広げることのできる良い機会となった。
- ・シンポジウムの講演内容については小特集として学会誌に掲載する予定であり、3 編の査読付き論文を含め 10 編ほどの論文を掲載予定である。査読付き論文は 2 月末、査読無し論文は 3 月末が提出締め切りである。
- ・シンポジウム開催時に、日本沙漠学会の予算で 2 名のアルバイトを雇用了。

##### 2. 乾燥地農学分科会開催報告

- ・石川企画担当理事から、2022 年 11 月 9 日に開催された乾燥地分科会の会計報告が行われた。
- ・支出内容は、主に会場費、講師料および要旨の印刷である。
- ・今回は平日に開催したが、大学教員は一般業務のため参加が難しい一方で、企業等からの参加者は働き方改革などの関係で土日休日の参加（勤務）が難しく、開催曜日については今後の検討事項である。

##### 3. DT14 収支決算

- ・川端編集担当理事から DT14 の収支報告があった。
- ・予算内で収まる見込みであり、さらに今後、投稿時のページ超過者には追加請求を行うため、収入が少し増える（査読者の指摘によりページ超過となった場合は請求しない）。残金は、次回の DT15 の事務局に送金する。
- ・プロシーディングス特別号および 32 巻 3 号のアブストラクト集も 12 月末に刊行済みである。

#### II. 審議・確認事項

##### 1. 第 34 回学術大会(2023 年 5 月 27-28 日 宮崎大学)

- ・大会実行委員長の入江委員長から、第 34 回学術大会の準備状況について説明があった。
- ・5 月 27 日は市街地のホテルメリーージュで、28 日は宮崎大学キャンパスで実施する。28 日の午後にはエクスカッションも行う予定である。
- ・発表申し込み期日は 2 月 25 日、要旨提出期日は 3 月 25 日とし、現時点では対面のみで実施予定である。
- ・今大会は、宮崎県観光協会から補助金の支援を受けて実施する。
- ・川端編集担当理事から、拡大編集委員会の場所の予約依頼と開催通知が行われた。入江委員長から、宮崎市街地の宮崎大学まちなかキャンパスを 17 時から 20 時まで予約済みであることが説明された。
- ・入江委員長から、参加者数がシンポジウム会場の収容人数（100 名）を超えた場合、会場の変更や、会場内の椅子の配置を工夫（シアター形式であれば 200 名まで収容可能）など、検討する必要があることが説明された。

##### 2. DT15 の進捗状況

- ・森尾会長から、DT15 の準備の進捗状況について報告があった。
- ・12 月 29 日時点で、提出済みのアブストラクトは 35 件で、そのうちオンライン参加登録やアブストラクトのアップロード済みが 16 件である。日本からの参加者は 8 名である。
- ・参加者から、オンラインでの発表や参加は可能か問い合わせがあり、ヨルダン事務局にオンラインセッションの設定が可能であることを確認した。その際の参加費は、発表者が 400 ドル（プロシーディングス集の出版費用込み）、参加者が 200 ドルである。

- ・参加者から、参加費用の支払期日を1月末から4月まで延期できないか問い合わせがあり、日本からの参加者は日本沙漠学会で徴収するため、対応可能であると返答した。
  - ・参加者から、請求書の発行依頼があり、DT14の時の請求書を参考にして対応することとなった。
  - ・日本沙漠学会の銀行口座はドルでの支払い受付ができないため、日本の参加者から参加費を徴収する際には円での価格設定が必要である。現在の為替レートやプロシーディングス発行費用の観点から、日本円で14万円程度に設定予定である（後日14万円に設定し、Web上でアナウンスした）。
  - ・日本で徴収した参加費は、プロシーディングス発行費用を確保し、残額はヨルダン事務局に送金する。
  - ・酒井副編集委員長から、DT15事務局の要望もあり口頭発表を2報行う予定であるが、1大会内での複数口頭発表の可否、その場合のプロシーディング化の費用などについて質問があった。森尾会長から明文化はされていないことが説明された。小島編集担当理事から、過去には1人2報発表した例もあり、基本的には大会事務局が判断する事項であることが説明された。
  - ・酒井副編集委員長から、参加費を今年度予算で支払う参加者のために、日本円の参加費を早急に決定すべきであると提案があった。森尾会長から、近日中の為替レートを踏まえ、価格を定め、ヨルダン事務局に確認したうえで決定することが説明された。
3. 役員選挙について
- ・島田選挙管理委員長から、役員選挙の進捗状況について報告があった。
  - ・2023年1月13日が評議員選挙の投票締め切り日であるため、会員に投票の催促をメールで行うことが報告された。
4. 日本学術会議の会員・連携会員の改選
- ・森尾会長から、日本学術会議の次期会員・連携会員の推薦依頼があったことが報告された。
  - ・日本学術会議の会員・連携会員は10月が改選時期であり、1月15日までに候補者を6名まで推薦可能である。
  - ・過去に日本沙漠学会から推薦したことはないが、小長谷理事から、現在の日本学術会議の状況について説明があり、そのうえで、地球規模の大きな課題に取り組む日本沙漠学会から推薦する意義が高いことが説明された。
  - ・候補者の推薦があれば、1月12日までに森尾会長まで連絡する。
5. 総会資料作成：会計、委員会報告（学会賞）、分科会報告
- ・森尾会長から、総会に関する資料（各委員会の事業報告、会計報告、新年度の事業計画、予算案など）を3月末までに総務担当理事へ提出するよう依頼があった。
  - ・5月の学術大会開催時に総会を行うため、4月の理事会、評議員会で総会資料の確認を行う。
6. 学会賞受付状況
- ・渡邊学会賞担当理事から、現時点では自薦、他薦共がないことが報告された。
  - ・今後、メーリングリストでの呼びかけを行う予定である。
  - ・森尾会長から、分科会からの推薦の検討も促された。
7. 予算執行状況報告
- ・矢沢財務担当理事から、2023年1月6日時点の予算執行状況について報告があった。
  - ・収入について、一般会員からの会費の納入は約80%である。購読会員と賛助会員からの入金は完了している。
  - ・正会員のうち、過去3年分の年会費を未払いの会員のステータスの取り扱いについて、議論が行われた。森尾会長、鈴木副会長から、細則に則り、十分に催促を行った上で理事会で諮り、退会の手続きを行うよう提案があり、審議の結果承認された。小長谷理事から他学会での同様の事例への対応についても紹介された。
  - ・収入として出版費が少なくなっている現状の一方で、学会誌発行費は今年度は増加している。川端編集担当理事から、今年度は1号分をDT14のabstract集とし、J-Stageで検索できる掲載方法としたため、データ作成費が増額となったことが説明された。しかし今後、掲載論文が充足している状態で、同様にDTのabstract集を掲載すると支出が増えてしまうため、予算立てについても今後検討の必要がある。
  - ・分科会交付金の配分や使用方法について議論が行われた。参加費の徴収など、交付金以外の資金で実施する努力も必要であることが説明された。
8. 投稿論文審査状況
- ・川端編集担当理事から、投稿論文の審査状況について報告があった。
  - ・沙漠研究32巻3号およびDT14プロシーディングス号は共に12月に刊行済みである。
  - ・沙漠研究32巻4号（3月刊行）は乾燥地農学分科

会小特集の内容について、沙漠研究 33 巻 1 号（6 月刊行）は秋季シンポジウムの内容について掲載予定である。なお、秋季シンポジウムの論文については、査読付きと査読無しの両方があるため、査読付き論文についてはその旨を論文掲載時に明記する。また、森尾会長から、このような場合の論文掲載や取扱について、編集委員会で内規として定めるよう依頼があった。

- ・矢沢理事から、小特集などと連携した論文の収集や、DT の abstract 集のように講演会要旨も J-Stage で検索できるようにして発表者の獲得につなげるなどの提案があった。
- ・川端理事から、共同研究等をしている海外の研究者による総説の執筆を積極的に推薦してほしい旨が説明された。

### 9. 沙漠事典英語バージョン

- ・石川企画担当理事から、これまでの経緯について説明された。
- ・Springer の担当者から英語版作成の再開が提案され、改めて担当者をたてて検討を進める方向である。
- ・森尾会長から、費用についてと、丸善との出版の権利について確認するよう指摘があった。

### 10. 沙漠工学分科会シンポジウム

- ・田島沙漠工学分科会会長から、3 月 8 日のシンポジウム「極乾燥地域ジブチにおける持続可能な農牧を目指した共同研究」について説明があった。
- ・東京農業大学での対面およびオンラインのハイブリッド開催を行う予定である。
- ・田島分科会会長から、シンポジウム内容を小特集として査読付きの論文化する案が示され、審議の結果、承認された。

### 11. おあしす 32 巻 3 号について

- ・島田総務担当理事から、32 巻 2 号の編集状況について報告された。
- ・表紙やモンゴル青年植樹交流団の活動報告、書評などについて内容を確認し、修正があれば総務担当理事へ連絡するよう説明があった。

## III. その他

1. 吉川賢「森林に何が起きているのか、気候変動が招く崩壊の連鎖」（中公新書）について書評依頼があり、森卓顧問が担当することとなった。
2. 評議員・会長・理事選挙の日程が説明された。
  - ・評議員選挙（1 月 13 日メ）→ 1/16 開票
  - ・会長選挙（2 月 17 日メ）→ 2/20 開票

- ・理事選挙（3 月 17 日メ）→ 3/22 開票

3. 2023 年度秋季シンポジウムは、沙漠工学分科会が担当し、農大で開催予定である。
4. 2024 年度学術大会は、文教大（渡邊委員長）で開催予定である。
5. 第 157 回理事会・評議員会は、2023 年 4 月 15 日（土）13 時からハイブリッド（対面は都内）で開催予定である。

## 日本沙漠学会 2023-2025 年度役員選挙管理委員会報告

### ▶ はじめに

- ・日本沙漠学会会則第 9, 10 条, 細則第 2 章, 内規第 8 条に従って、2020-2022 年度役員選挙が行われた。
- ・第 154 回理事会（2022 年 7 月 16 日）において、選挙管理委員の選出が会長に一任され、島田沢彦会員（810）、箭内多聞会員（872）、篠原卓会員（937）、橋隆一会員（994）、寄立徹会員（1065）を委員とした（第 155 回理事会承認）。

### ▶ 第 1 回選挙管理委員会議事録

日 時：令和 4 年 10 月 8 日（土） 13：30～14：00

場 所：Web 会議室

出 席：島田沢彦、箭内多聞、篠原卓、橋隆一、寄立徹  
オブザーバ：森尾貴広、鈴木伸治、齋藤哲治

#### 議 題：

1. 選挙管理委員長の選出  
東京農業大学 島田沢彦 会員に決定した。
2. 選挙日程確認
  - (1) 評議員選挙
    - ・おあしす（9 月号）と学会 HP で公示（名簿は郵送のみ）、（現職以外）推薦依頼。  
有権者名簿の作成（正会員＋名誉会員）ただし、3 年以上未納の会員を除く  
（2017～2019 年度役員選挙管理委員会からの申し送り、第 127 回理事会議事録参照）。
    - ・現評議員（30 名）に加える 5 名以内の新規候補者を決定する。新規候補者に確認をとる。  
（推薦者が 10 名以上あった方）11/30 締め切り、12/5 新規候補者の決定。
    - ・おあしす（12 月号）と学会 HP で公示＋郵送。  
投票用紙同封。1/13 締切。1/16 開票。  
（25 名の評議員を決定、承諾書送付）
  - (2) 会長選挙
    - ・評議員 25 名に投票用紙送付 2/17 締切。2/20 開票。
  - (3) 理事選挙
    - ・25 名の評議員へ投票用紙送付 3/17 締切。3/22

開票.

- (4) 新会長指名評議員 5 名, 会長指名理事 2 名の追加選任.
  - (5) 新会長による副会長 2 名の指名.
  - (6) 新理事会による監事 2 名の選任.
  - (7) 総会 (5 月) で承認.
  - (8) 承諾書 (会長名で副会長, 理事, 評議員に) および委任状 (希望者) の送付と受取り.
  - (9) 選挙管理委員会の解散.
3. 選挙人名簿作成について  
共立に作成を依頼, 9 月号に同封する.
4. その他
- (1) 選挙管理委員会送付先は, 以下とする.  
東京農業大学国際食料情報学部国際食農学科内  
日本沙漠学会選挙管理委員会 篠原 卓 宛
  - (2) 次回 12 月 5 日 (月) 18:30~

### ▶ 第 2 回選挙管理委員会議事録 (抜粋)

日 時: 令和 4 年 12 月 5 日 (月) 18:30~19:30  
場 所: 東京農業大学世田谷キャンパス・サイエンスポ  
ート S-612  
出 席: 島田沢彦, 箭内多聞, 篠原卓, 橘隆一  
Web 参加: 寄立徹  
オブザーバ: 鈴木伸治, 齋藤哲治

議 事:

1. 評議員選挙候補者の決定
  - ・ 38 通の推薦があった.
  - ・ 10 名以上の推薦があった被推薦者は 7 名であった.  
内規第 8 条に従い, 推薦者数の多い順に 5 名を評議員選挙の新規候補者に決定した.
  - ・ 現評議員 (30 名) から評議員資格を喪失する名誉会員を除外した 29 名に, 確認をとったうえで新規候補者 5 名を加えた, 計 34 名を被選挙人とすることを確認した.
  - ・ 評議員候補者 (被選挙人) は下記の通り.  
安部 豊 石川祐一 入江光輝 \* 柏木健一  
\* 川田清和 川端良子 北村義信 小島紀徳  
児玉香菜子 小長谷有紀 酒井裕司 真田篤史  
\* 篠田雅人 篠原 卓 島田沢彦 菅沼秀樹  
鈴木伸治 高橋新平 田島 淳 田中 徹  
豊田裕道 縄田浩志 \* 檜谷 昂 平田昌弘  
藤巻晴行 \* 星野仏方 的場泰信 三木直子  
森尾貴広 森 卓 矢沢勇樹 依田清胤  
渡邊文雄 渡邊三津子 (\* 新規候補者)
2. 選挙日程確認 (略)
3. その他
  - ・ 次回 1 月 16 日 (月) 18:30~

### ▶ 第 3 回選挙管理委員会議事録 (抜粋)

日 時: 令和 5 年 1 月 16 日 (月) 18:30~20:00  
場 所: 東京農業大学世田谷キャンパス・サイエンスポ  
ート S-612  
出 席: 島田沢彦, 篠原卓, 橘隆一  
Web 参加: 箭内多聞, 寄立徹  
委任状: なし  
オブザーバ: 鈴木伸治, 齋藤哲治

議 事:

1. 評議員選挙開票
  - ・ 総投票数 103, 白票 1 票.
  - ・ 上位 25 名を当選とした.
  - ・ 評議員選挙当選者は下記の通り.  
安部 豊 石川祐一 入江光輝 川田清和  
川端良子 北村義信 小島紀徳 児玉香菜子  
小長谷有紀 酒井裕司 篠田雅人 篠原 卓  
島田沢彦 菅沼秀樹 鈴木伸治 田島 淳  
豊田裕道 縄田浩志 平田昌弘 藤巻晴行  
星野仏方 森尾貴広 矢沢勇樹 渡邊文雄  
渡邊 三津子
2. 選挙日程確認 (略)
3. その他
  - ・ 次回 2 月 20 日 (月) 18:30~

### ▶ 第 4 回選挙管理委員会議事録 (抜粋)

日 時: 令和 5 年 2 月 20 日 (水) 18:30~19:00  
場 所: 東京農業大学世田谷キャンパス・サイエンスポ  
ート S-612  
出 席: 島田沢彦, 篠原卓, 橘隆一  
Web 参加: 寄立徹  
委任状: 箭内多聞  
オブザーバ: 齋藤哲治

議 事:

1. 会長選挙開票
  - ・ 総投票数 22 票.
  - ・ 森尾貴広評議員が当選した.
2. 選挙日程確認他
  - ・ 理事被選挙人について, 以下の 20 名を確認した (次  
期会長・継続 2 期理事任期者は除外).  
安部 豊 石川祐一 入江光輝 川田清和  
川端良子 北村義信 児玉香菜子 酒井裕司  
篠田雅人 篠原 卓 菅沼秀樹 鈴木伸治  
田島 淳 豊田裕道 縄田浩志 平田昌弘  
藤巻晴行 星野仏方 矢沢勇樹 渡邊文雄
3. その他
  - ・ 次回 3 月 22 日 (水) 18:30~

➤ 第 5 回選挙管理委員会議事録（抜粋）

日 時：令和 5 年 3 月 22 日（水） 18：30～19：10  
場 所：東京農業大学世田谷キャンパス・サイエンス  
ポート S-612  
出 席：島田沢彦，篠原卓，橘隆一  
Web 参加：寄立徹，箭内多聞  
オブザーバ：鈴木伸治，齋藤哲治

当選者は下記の通り。

石川祐一 入江光輝 川端良子 児玉香菜子  
酒井裕司 鈴木伸治 矢沢勇樹 渡邊文雄

- 2. 選挙日程確認（略）
- 3. その他
  - ・ Web に当選評議員を掲載することを確認

議 事：

- 1. 理事選挙開票
  - ・ 総投票数 24，無効票なし。
  - ・ 上位 8 名のうち 1 名が辞退を申し出たため，第 9 位を繰上げ，計 8 名を理事選挙当選者とした。

➤ 会長選任役員

- ・ 評議員：真田篤史会員，高橋新平会員，三木直子会員，田中徹会員，的場泰信会員
- ・ 理 事：的場泰信評議員，真田篤史評議員
- ・ 副会長：田中徹評議員，島田沢彦評議員

\* \* \* \* \* 会 員 動 向 \* \* \* \* \*

●新入会員

正会員

木村 李花子 (ID: 1171) 東京農業大学  
ブランジェ ジュリアン (ID: 1172) 東京農工大学  
アロウイシー アデル (ID: 1174) 九州大学

学生会員

Nizamov Sherzod (ID: 1173) 東京農工大学  
柴田 理佳 (ID: 1175) 東京農業大学  
倉光 太一 (ID: 1176) 東京農業大学  
山本 翔太 (ID: 1177) 東京農業大学

●退会会員

正会員

安井 元昭 (ID: 509) (独) 情報通信研究機構  
蒲生 稔 (ID: 126) 産業技術総合研究所  
福永 健司 (ID: 601) 東京農業大学  
吉崎 真司 (ID: 643) 東京都市大学  
加藤 誠 (ID: 654)  
長沼 毅 (ID: 853) 広島大学大学院  
西村 貴志 (ID: 1158) 独立行政法人 国際協力機構

\*\*\*\*\* 賛助会員・団体会員名簿 \*\*\*\*\*

アースアンドヒューマンコーポレーション	194-0041	町田市玉川学園 8-3-23	Tel：042-710-7661
株式会社ウイジン	158-0097	世田谷区用賀 2-12-14	Tel：03-3700-0531
NTC インターナショナル株式会社	136-0071	東京都江東区亀戸 1-42-20	Tel：03-6892-3401
株式会社大林組技術研究所	204-8558	清瀬市下清戸 4-640	Tel：0424-95-1060

\*\*\*\*\*